

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201377		
法人名	社会福祉法人 ハーモニー		
事業所名	グループホーム・ハーモニー		
所在地	松本市大字島内字広田 4068-1		
自己評価作成日	平成21年8月8日	評価結果市町村受理日	平成21年11月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070201377&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念:「今が一番」「今を楽しく」「今を豊かに」を原点に心から安心でき、心から笑って生活が迎えられる。自分が自分らしくそんな毎日が送れるよう支援していきます。

今年度の目標;

- 1、自分の介護の思いをきっちり伝え互いに理解しよう。
 - 2、チームの中で自分の得意な役割を作ろう。
- 開設5年目を迎え、基本姿勢として相手の嫌がるケアは絶対にしたくないをモットーに作り上げてきた。家族または本人が選んだ施設として残された余生を安心して任せられる施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム・ハーモニーは、社会福祉法人ハーモニーの運営によるデイサービス、老人保健施設等に隣接して設置され、避難訓練をはじめ様々な連携が図られている。近隣には、松本合同庁舎、音楽文化ホールなどの公共施設や、大型スーパーがあり、自然に囲まれた静かな住宅地は入居者にとって楽しみな散歩コースとなっている。ホームの庭で採れた野菜を地域に配ったり、認知症の理解に向けての勉強会を開催するなど、地域との交流もはかられている。看護師として長い経験を持つ管理者と連携医療機関により、日常の健康管理体制や、重症化、看取りの体制が構築されていることは、入居者と家族の大きな安心につながっている。職員による心に寄り添うケアの提供により、入居者は明るく穏やかな表情をされていた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1階ユニット)							
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
ユニット名(2階ユニット)							
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年 職員間で1年間の反省とともに理念の見直し、目標をあげ利用者のニーズと自分たちが行いたい目標など話し合いを持ち実践につなげるよう心がけている。	“心から安心でき、心から笑って生活でき、自分が自分らしく過ごせるよう、明日に延ばすことなく「今」を大切に支援”の理念に従い、管理者、職員一同が実践につなげる取り組みを行っていた。	「今、この時の希望や願い」を大切にしたい理念に基づく支援は、入居者の心地よさ、落ち着きにつながり、職員に対する信頼感が感じられた。今後更に、地域生活の継続性を含めた理念を職員とともに作り上げられることが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例で地域の老人会の花見の招待を受けたり、地区ひろばの文化祭に作品の展示を行い交流ができるようになってきた。散歩中のお会いから果実の差し入れ、ホームで収穫した野菜をおすそ分けするなど普通の生活を送っていることを理解していただけるようにしている。	ホームで収穫した野菜を近所におすそ分けしたのを機に、徐々に近所づきあいが広がり始めている。利用者の作品を地域の文化祭に出品したり、ホームの納涼祭への声かけをするなど、地域との関わりを積極的に持たれている様子が伺えた。	管理者、職員ともに地域の人たちとのふれあいを大切にする姿勢が感じられた。平成17年の開設から現在に至る間、徐々に地域住民との交流がはかられてきており、今後も普段の暮らしの中で、ともに暮らす地域住民の一員としての取り組みを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館活動の認知症の勉強会への関わりの中で日ごろの実践体験から学んだ学習会ができた。人材育成の貢献として積極的に介護福祉士、看護学生などの実習やボランティアを受け入れている。	/	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に入って、推進会議の役員から提案され家族の参加、利用者のお楽しみ会として音楽会を含めて交流会(食事会)を行った。今後、会の持ち方の工夫が課題である。	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民、地域包括センター職員等の参加により開催されており、今年度は年6回の計画が組まれている。会議で出された意見や情報は、その後のケアに反映するなど、サービスの向上に活かされている。	運営推進会議への積極的な取り組みは、地域住民の運営への見守りや協力に繋がるものと思われる。今後も継続されることを望む。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月市の委託事業の相談員2名の訪問により利用者との交流を図っている。社会福祉事業者協議会を通じて他の職種との連携を図っている。	管理者は、市との連携の重要性は理解されているが、多忙で移動もある担当者との関わりについては、模索中とのことであった。	市は介護保険の保険者であり福祉の推進役として最前線の立場にあるため、現場でのケアの実態を担当者に理解してもらうことは重要と思われる。市職員への研修場所としての場所提供など、交流と連携に取り組まれることを期待する。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束に関する研修を得た職員からの伝達講習を行い共有意識を持つよう心がけている。入居者の抑圧感を招いていないかケアカンファレンスを行い常に振り返っている。	勉強会や研修を行ない、すべての職員が身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組まれていた。職員の見守りにより、安全面に配慮した、鍵をかけない自由な暮らしが支えられている様子を確認した。	入居者の行動症状に対しては、その原因を探り、自らのケアを振り返るアプローチがされていて、常に入居者の気持ちを思いやる姿勢が感じられた。

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を得た職員からの伝達講習を行っている。自分たちのケアや、何気ない会話から虐待行為がないかどうかケアカンファレンスを行いながら振り返るようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加し、伝達講習を行っているが日常的でないため、全スタッフが同一レベルでの理解はされていないのが現状である。対応と思われる入居者に対して任意後見人制度の利用を相談し進めており、その経過とともに手順の報告会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに関する考え方、取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。介護報酬の改定や利用料の改正時には説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、ケアプランの同意時、運営推進会議などにおいて意見、苦情、要望など気楽に出せるような雰囲気作りが心がけ、出された要望などは反映させている。	運営推進会議や面会時など、意見や要望を表せる機会を設けたり、直接言いにくい方へは意見箱を設置しより多くの意見を出してもらおうよう配慮されていた。	家族会が結成され、要望や意見が出されやすい体制が構築されていた。今後も継続して家族の意見や願いが、日々の運営に活かされることを望む。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談は年1回行っているが、職員から常に意見、要望など随時出せるような雰囲気作りを心がけている。	管理者は、看護師として現場のケアに携わるなど、管理者としての枠を越えて現場の状況把握に努められていた。夜勤体制を2ユニット一人から二人制にするなど、職員の疲労やストレスにも気を配り、職員が向上心を持って働き続けられるような配慮が感じられた。	職員の念願であった増員による二人夜勤により、職員の精神的な負担軽減を図ることができた。管理者が職員の声に耳を傾ける姿勢が、職員の働く意欲や質の向上につながっていると思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間を通し研修、自己研鑽の努力など自己評価表を用い実績が分かるようにしている。管理者は運営者に対し、職員個々の努力や実績、勤務状況を報告し、各自が向上心を持って働けるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の情報を収集し、多くの職員が受講できるように計画している。研修報告は勉強会で発表し、全職員が常に閲覧できるように配慮している。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会同士で交換研修や認知症の勉強会を設けて質の向上に励んでいる。2ヶ月に1回の割合で交流会を持ち互いの悩み、問題、制度における疑問など相談できる環境がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めた。入居者によってはショートステイ、通所により本人の求めていること、不安を理解しようとしたとともに職員と顔なじみになるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、意見など気持ちを聞き取った上で、事業所としての対応を話し合い、職員全員が把握できるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望する家族との話し合いを持ち今の気持ちを理解した上で、また即入所ができない場合の対処法として、他施設の紹介や他のサービスの利用方法など説明をし、知識の提供を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を知り、何が快か不快であるかを知り、より安心、安全に暮らせるよう支援している。入居者の目線で明るく楽しく過ごせるよう努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に生活歴を見ていただきながら、本人の様子とその対応方法など伝え、また家族の要望、意見なども気楽に相談・確認できるように心がけている。異常があった場合にはその都度連絡している。施設行事がある時に一緒に楽しんでいただけるよう配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院へ行ったり、希望によって墓参りに同行したり、同窓会への参加など一人ひとりの生活習慣を尊重し協力できるよう努力している。	行きつけの美容院や命日の墓参りの同行、同窓会への参加など、本人を支えたり本人が支えられてきた人間関係を把握し、つながりを継続できる支援に努められていた。	一人ひとりのかけがえのない人や場とのつながりを大切にする取り組みを、今後も継続されることを期待する。

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事時には職員も同席し、共通の会話を持つようにしている。またできるだけ個別に関わり話を聞いたり、皆で外出を楽しむことができるよう努力している。皆で歌やレクリエーションによって一体感になれるような環境づくりに努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった入居者のケアの状況、習慣、工夫点などの情報の伝達を行い環境が変わったことから来る心身のダメージを考慮した支援を郵便、電話などを用いて行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日常時の身体、精神機能を知るためにセンター方式のD1, 2シートを活用し、思いや意向の把握が偏らないよう家族に確認をしたりカンファレンスで職員の意見交換をしてケアの方向性を話し合っている。	職員は一人ひとりの思いや意向について、本人の表情から汲み取るとともに、家族の意見やカンファレンスの意見交換を行い、意向の把握に努められている様子が伺えた。	日々の気づきや実践を記録にすることで、意向や情報の共有につながり、職員間のケアに活かされている。今後も一人ひとりの思いや意向を推し測る姿勢を大切にしたい、チームでの取り組みを継続されることを期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアの行き詰ったときに家族に相談をしたり、情報を得たり、本人との会話の中から理解をしていくよう努力している。それによってサービスの提供などに幅がもてるように心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの日々の動きから過ごし方や、心身状況を把握するよう努力し、引継ぎ、連絡ノートなどによって職員は共有している。ケア内容は個々の力に見合った作業を実施し、それぞれの力が発揮できる環境づくりに心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の要望を盛り込み、3ヶ月に一度の割合でケアプランを見直し実践に活かしている。また皆で行うことにより行き詰まったケアの解決方法にもつながりよい方向性を見出せている。	受け持ちの介護者が本人、家族の要望をもとにケアプランを作成し、チームで話し合いアイデアを出し合いながら介護計画を作り上げていた。3ヶ月ごとの見直し期間のほかに、カンファレンスを行い、刻々とした変化に対応されていた。	受け持ち制により、入居者や家族を良く知る介護者によって、個別で具体的な利用者主体の計画となっている。今後も臨機応変で柔軟な対応ができるような計画策定を期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常生活の様子が一目で確認できるワークシートを工夫し活用している。職員が気づいたことや、情報などはその都度個別に記録し共有を図っている。また記録を元に計画の見直し、評価を行っている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所の老健で毎月音楽療法、年間を通した行事の参加により日常生活の入居者の楽しみの一つになっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間を通し地域の文化祭の展示にむけ作品作りを目的に張りが持っている。音楽文化ホールで開催される太鼓祭り、琴コンサートなどレベルに応じて出かけ楽しい刺激となっている。定期的な美容ボランティアの協力も得られている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を希望される方は家族の協力を得ながら継続している。また緊急での医療受診の際には職員が同行し、健康管理を行っている。	複数の医療機関との関係を結んでおり、日頃から協力医との連携は密にされていることが確認された。日々の健康管理が体調の変化の早期発見につながり、適切な医療支援が行なわれていた。	看護職員の配置による健康管理や、緊急時の受診体制は、本人、家族の最大の安心につながっていると思われる。今後も継続して支援されることを望む。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置があり日常ケアの中で常に異変の情報をキャッチし、医師との連携がスムーズに行われるため早めの対応ができ重度化の防止と、入院をできる限り最小限に抑え施設内でのケアが続けられるよう心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては病院関係者との連携を持ちながら情報交換をし、早めの退院に向けて、その後のケアやりハピリに対して職員が学習する時間を作り準備を行い、できるだけ早く元の生活に近づけられるよう心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意志を確認した上で医療をどのように受けていくのか、終末期の方針、施設ができる可能なケアについて説明し、理解を得ている。身寄りがない入居者に対しては認識できるときに話し合いを持ち確認を取っている。	入居時に重度化や終末期の指針を説明し、本人、家族の意思はその都度確認しながら、希望に添えるよう対応されていることが確認できた。	終末期支援の対応を早い段階から確認され、事業所でできる最大限の支援に取り組まれていることは、本人、家族の安心につながっている。今後更に、同意書の作成などに取り組まれることを望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命救急の勉強会、対応可能なケアについて知識の共有を図っている。緊急時マニュアルは常に閲覧できる場所に掲示してあり緊急時に備えている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、防災訓練を地域の消防団、住民の参加を得ながら協力がある。災害時の通報は責任者からその都度説明を受け、誰でも対応できる体制を築いている。	夜間の火災を想定した訓練が、地域の消防団、住民の参加のもとに行なわれていた。避難場所での混乱防止と頭部保護目的のため、個人の特徴を明記した頭巾を作成するなど、具体的な物品準備もされていた。	火災ばかりでなく地震、水害、大雪などの様々な災害が想定される。職員にわかりやすい場所に、フローシートの掲示をしたり、夜勤前に各自シミュレーションしたり、いざというとき慌てないよう日頃から備品の確認するなどの取り組みを期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を払うことを忘れず、本人の基本を大切に言葉かけや、ケアを心がけている。援助が必要なときもさりげなく居間に誘導しプライバシーを確保している。	職員は言葉がけの際は利用者との目の高さを合わせ、さりげなく優しい表情で接している様子が伺えた。日常的なやり取りから、利用者の人格を尊重する姿勢が感じられた。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則である。今後も継続してミーティング等で確認したり、プライバシーの保護規定を掲示するなど常に確認しあうことを望む。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の場面ごとに一人ひとりに合わせた声かけをし、本人の意向に沿うよう心がけている。また職員間が一人ひとりと深く関わる事により、反応を的確に把握できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、個々のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。買い物などの外出の希望にはできるだけ迅速に対応している。しかし入浴の時間、日程などにおいては希望に添えないこともある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを大切に、季節に合った服装をして頂けるよう心がけている。2ヵ月毎の美容師ボランティアの散髪をしていただいたり、なじみの美容院の希望によりパーマをかけに行くなどの支援をしている。服装の乱れなど気遣い身だしなみに配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの自家菜園で収穫したり、季節ごとの旬な食材を取り入れている。一人ひとりのレベルにあった食事の下ごしらえや料理の得意を活かせるようなプラン作りを心がけ日常的な支援が行われている。嗜好に踏まえた料理や、節目ごと特別メニューで食事を楽しんでいる。	訪問当日は、餃子を包んだり、もやしの根を取る作業を、職員とともに楽しそうに行っている様子が見られた。入居者は気の合う仲間同士や職員と食事を味わっていた。	職員は、食事一連の作業を入居者の力を活かしながら行っており、利用者と職員が一緒に食事を楽しむことで家庭的な環境作りがされていると思われる。今後も継続して取り組んでいただきたい。
41		栄養摂取や水分確保の支援	職員全員が一人ひとりの体調と一日の摂		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	取量を把握できるよう個人の記録を行い、不足している場合補助食品や半流動食品を取り入れ食べやすいものを工夫している。全体量が不足しがちな人には夜間も摂取できるような支援を心がけている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、毎食後には洗面所にて口腔ケアを行っている。自分で出来ない方には気持ちに配慮しながら、能力に応じた支援を行い清潔を保つように努めている。必要な場合、定期的に歯科受診を行い口腔ケアに努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら入居者の表情や訴えに応じた支援を行っている。Dパンツや、パットなど個々に合わせながら検討を重ね、夜間と昼間の使用を区別し出来る限り気持ちよく過ごせるように配慮している。	職員は、トイレの誘導の際、さりげなくそつと声をかけるなど、本人の自尊心に配慮した援助を行っていた。車椅子で入れるスペースが確保されていたり、背もたれ付きのトイレなど工夫が見られた。	排泄の自立は、生きる意欲や自信の回復につながることを介護者が理解し、本人のプライドを傷つけない配慮が見られた。今後も継続した支援を望む。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や運動をレベルに合わせて個別対応を行い、水分補給に心がけている。排泄の状態を観察しながら食品に気を使い、微量な下剤コントロールによって過剰にならないような生活習慣を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	羞恥心や、体の負担にならないよう配慮しながら無理強いはしない。本人が入浴したい気持ちを誘い出すような言葉がけに気を使っている。入浴できない日には足浴を行い気分転換をしている。	入居者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援を行っていた。体調等により清拭や足浴に切り替えたり、仲の良い方同士での入浴など、柔軟な対応がされていた。	入浴を嫌がる場合は無理強いせず、抵抗感を職員がその都度理解し、利用者を脅かさない支援がされていた。今後も利用者の心情に寄り添う支援を継続していただきたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や疲労状態を見て午睡を進めたり、寝付けなかったり、不安の表出がある場合傍に寄り添える時間をとるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	希望者は1週間ごとにセットし自己管理できるようにしている。服薬時はきちんと氏名、時間を確認し間違いの無いように注意している。服薬情報の手帳をいつでも確認できるようにしている。変更時は連絡帳によって職員に情報が提供できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルに応じた得意分野を活かし、料理作り、洗濯物をたたむ、玄関の掃除、散歩の帰りの畑の作物の収穫、手芸、作品作り、音楽療法への参加など個々の楽しみ、役割を配慮し、日常の張り合いになるよう支援に心がけている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院、買い物、時には外食の希望など取り入れられるよう心がけている。音楽文化ホールでのコンサートもチャンスがあれば出かけ気分転換を図っている。太鼓、琴コンサート、地域の文化交流会の誘いに来るだけ大勢の参加が出来るよう心がけている。	一人ひとりの希望に応じ、美容院、散歩、外食など戸外へ出る支援を積極的に行っていた。訪問調査日には、利用者の希望により選挙の期日前投票への付き添いが行なわれ、「今」を大切にするケアの実践が確認された。	日常的支援に限らず、本人の思いに添った墓参りや思い出の場所への外出支援に応える姿勢は、利用者や家族の大きな満足感につながっていると思われる。今後も継続されることを望む。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際に現金を持ち買い物を楽しむなどの支援をレベルに応じて行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出すための支援を行っている。個人で携帯を持ち自己管理している入居者が定期的に家族と連絡できる環境がある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員ごとで季節の当番を決め季節に合わせた装飾を居室や、壁に飾りできるよう入居者と一緒に作ってささやかな楽しみを作り季節感を味わっている。	居間や玄関には利用者と職員で作上げた作品や絵画が飾られ、季節感を採り入れた生花や装飾品がさりげなく置かれていた。ゆったりとした思い思いにくつろいでいる利用者の様子が伺えた。	今後も利用者にとって懐かしく感じたり、居心地の良い空間作りに努められるよう期待する。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは仲良し同士、レベルにあった仲間が隣同士になるなどお互いが良い関係が保てるよう環境づくりに心がけている。テーブルの名前を見て利用者自身の居場所が分かり安心が得られるようにした。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や以前から使われているタンス、人形、椅子など持ち込まれ、個々にあった居心地の良い空間が作れるよう家族から協力を得ている。いつもお気に入りの場所があり部屋ではその場所から見える景色、行き交う車などを見ながら楽しめる雰囲気がある。	寝具やタンス、仏壇や写真やぬいぐるみなど、馴染みの物を活かし本人が落ち着いて過ごせる居室作りに取り組まれていた。	職員がプライバシーに配慮し、居心地の良い居室の環境作りに配慮していることが確認された。今後も引き続きの支援を望む。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて混乱が生じた場合は物の配置に気を配るよう心がけている。トイレ風呂場など身体状況に応じ、手すり、背もたれなど増設した。施設内はバリアフリーではあるが数mmの段差の場所に注意が向くよう黄色いテープを張り目立つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年 職員間で1年間の反省とともに理念の見直し、目標をあげ利用者のニーズと自分たちが行いたい目標など話し合いを持ち実践につなげるよう心がけている。	「心から安心でき、心から笑って生活でき、自分が自分らしく過ごせるよう、明日に延ばすことなく「今」を大切に支援」の理念に従い、管理者、職員一同が実践につなげる取り組みを行っていた。	「今、この時の希望や願い」を大切にしたい内容 理念に基づく支援は、入居者の心地よさ、落ち着きにつながり、職員に対する信頼感を感じられた。今後更に、地域生活の継続性を含めた理念を職員とともに作り上げられることが望まれる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例で地域の老人会の花見の招待を受けたり、地区ひろばの文化祭に作品の展示を行い交流ができるようになってきた。散歩中の出会いから果実の差し入れ、ホームで収穫した野菜をおすそ分けするなど普通の生活を送っていることを理解していただけている。	ホームで収穫した野菜を近所におすそ分けしたのを機に、徐々に近所づきあいが広がり始めている。利用者の作品を地域の文化祭に出品したり、ホームの納涼祭への声かけをするなど、地域との関わりを積極的に持たれている様子が伺えた。	管理者、職員ともに地域の人たちとのふれあいを大切にしている姿勢が感じられた。平成17年の開設から現在に至る間、徐々に地域住民との交流がはかられてきており、今後も普段の暮らしの中で、ともに暮らす地域住民の一員としての取り組みを期待する。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館活動の認知症の勉強会への関わりの中で日ごろの実践体験から学んだ学習会ができた。人材育成の貢献として積極的に介護福祉士、看護学生などの実習やボランティアを受け入れている。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に入って、推進会議の役員から提案され家族の参加、利用者のお楽しみ会として音楽会を含めて交流会(食事会)を行った。今後、会の持ち方の工夫が課題である。	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民、地域包括センター職員等の参加により開催されており、今年度は年6回の計画が組まれている。会議で出された意見や情報は、その後のケアに反映するなど、サービスの向上に活かされている。	運営推進会議への積極的な取り組みは、地域住民の運営への見守りや協力に繋がるものと思われる。今後も継続されることを望む。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市の委託事業の相談員2名の訪問により利用者との交流を図っている。社会福祉事業者協議会を通じて他の職種との連携を図っている。	管理者は、市との連携の重要性は理解されているが、多忙で移動もある担当者との関わりについては、模索中とのことであった。	市は介護保険の保険者であり福祉の推進役として最前線の立場にあるため、現場でのケアの実態を担当者に理解してもらうことは重要と思われる。市職員への研修場所としての場所提供など、交流と連携に取り組まれることを期待する。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束に関する研修を得た職員からの伝達講習を行い共有意識を持つよう心がけている。入居者の抑圧感を招いていないかケアカンファレンスを行い常に振り返っている。	勉強会や研修を行ない、すべての職員が身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組まれていた。職員の見守りにより、安全面に配慮した、鍵をかけない自由な暮らしが支えられている様子を確認した。	入居者の行動症状に対しては、その原因を探り、自らのケアを振り返るアプローチがされていて、常に入居者の気持ちを思いやる姿勢が感じられた。	

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を得た職員からの伝達講習を行っている。自分たちのケアや、何気ない会話から虐待行為がないかどうかケアカンファレンスを行いながら振り返るようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加し、伝達講習を行っているが日常的でないため、全スタッフが同一レベルでの理解はされていないのが現状である。対応と思われる入居者に対して任意後見人制度の利用を相談し進めており、その経過とともに手順の報告会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに関する考え方、取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。介護報酬の改定や利用料の改正時には説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、ケアプランの同意時、運営推進会議などにおいて意見、苦情、要望など気楽に出せるような雰囲気作りを心がけ、出された要望などは反映させている。	運営推進会議や面会時など、意見や要望を表せる機会を設けたり、直接言いにくい方へは意見箱を設置しより多くの意見を出してもらおうよう配慮されていた。	家族会が結成され、要望や意見が出されやすい体制が構築されていた。今後も継続して家族の意見や願いが、日々の運営に活かされることを望む。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談は年1回行っているが、職員から常に意見、要望など随時出せるような雰囲気作りを心がけている。	管理者は、看護師として現場のケアに携わるなど、管理者としての枠を越えて現場の状況把握に努められていた。夜勤体制を2ユニット一人から二人制にするなど、職員の疲労やストレスにも気を配り、職員が向上心を持って働き続けられるような配慮が感じられた。	職員の念願であった増員による二人夜勤により、職員の精神的な負担軽減を図ることができた。管理者が職員の声に耳を傾ける姿勢が、職員の働く意欲や質の向上につながっていると思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間を通じ研修、自己研鑽の努力など自己評価表を用い実績が分かるようにしている。管理者は運営者に対し、職員個々の努力や実績、勤務状況を報告し、各自が向上心を持って働けるよう努力している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の情報を収集し、多くの職員が受講できるように計画している。研修報告は勉強会で発表し、全職員が常に閲覧できるように配慮している。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会同士で交換研修や認知症の勉強会を設けて質の向上に励んでいる。2ヶ月に1回の割合で交流会を持ち互いの悩み、問題、制度における疑問など相談できる環境がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めた。入居者によってはショートステイ、通所により本人の求めていること、不安を理解しようとしたとともに職員と顔なじみになるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、意見など気持ちを聞き取った上で、事業所としての対応を話し合い、職員全員が把握できるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望する家族との話し合いを持ち今の気持ちを理解した上で、また即入所ができない場合の対処法として、他施設の紹介や他のサービスの利用方法など説明をし、知識の提供を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を知り、何が快か不快であるかを知り、より安心、安全に暮らせるよう支援している。入居者の目線で明るく楽しく過ごせるよう努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に生活歴を見ていただきながら、本人の様子とその対応方法など伝え、また家族の要望、意見なども気楽に相談・確認できるように心がけている。異常があった場合にはその都度連絡している。施設行事がある時に一緒に楽しんでいただけるよう配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院へ行ったり、希望によって墓参りに同行したり、同窓会への参加など一人ひとりの生活習慣を尊重し協力できるよう努力している。	行きつけの美容院や命日の墓参りの同行、同窓会への参加など、本人を支えたり本人が支えられてきた人間関係を把握し、つながりを継続できる支援に努められていた。	一人ひとりのかけがえのない人や場とのつながりを大切にする取り組みを、今後も継続されることを期待する。

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事時には職員も同席し、共通の会話を持つようにしている。またできるだけ個別に関わり話を聞いたり、皆で外出を楽しむことができるよう努力している。皆で歌やレクリエーションによって一体感になれるような環境づくりに努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった入居者のケアの状況、習慣、工夫点などの情報の伝達を行い環境が変わったことから来る心身のダメージを考慮した支援を郵便、電話などを用いて行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日常時の身体、精神機能を知るためにセンター方式のD1, 2シートを活用し、思いや意向の把握が偏らないよう家族に確認をしたりカンファレンスで職員の意見交換をしてケアの方向性を話し合っている。	職員は一人ひとりの思いや意向について、本人の表情から汲み取るとともに、家族の意見やカンファレンスの意見交換を行い、意向の把握に努められている様子が伺えた。	日々の気づきや実践を記録にすることで、意向や情報の共有につながり、職員間のケアに活かされている。今後も一人ひとりの思いや意向を推し測る姿勢を大切にしたい、チームでの取り組みを継続されることを期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアの行き詰ったときに家族に相談をしたり、情報を得たり、本人との会話の中から理解をしていくよう努力している。それによってサービスの提供などに幅がもてるように心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの日々の動きから過ごし方や、心身状況を把握するよう努力し、引継ぎ、連絡ノートなどによって職員は共有している。ケア内容は個々の力に見合った作業を実施し、それぞれの力が発揮できる環境づくりに心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の要望を盛り込み、3ヶ月に一度の割合でケアプランを見直し実践に活かしている。また皆で行うことにより行き詰まったケアの解決方法にもつながりよい方向性を見出せている。	受け持ちの介護者が本人、家族の要望をもとにケアプランを作成し、チームで話し合いアイデアを出し合いながら介護計画を作り上げていた。3ヶ月ごとの見直し期間のほかに、カンファレンスを行い、刻々とした変化に対応されていた。	受け持ち制により、入居者や家族を良く知る介護者によって、個別で具体的な利用者主体の計画となっている。今後も臨機応変で柔軟な対応ができるような計画策定を期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常生活の様子が一日で確認できるワークシートを工夫し活用している。職員が気づいたことや、情報などはその都度個別に記録し共有を図っている。また記録を元に計画の見直し、評価を行っている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所の老健で毎月音楽療法、年間を通した行事の参加により日常生活の入居者の楽しみの一つになっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間を通し地域の文化祭の展示にむけ作品作りを目的に張りが持っている。音楽文化ホールで開催される太鼓祭り、琴コンサートなどレベルに応じて出かけ楽しい刺激となっている。定期的な美容ボランティアの協力も得られている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を希望される方は家族の協力を得ながら継続している。また緊急での医療受診の際には職員が同行し、健康管理を行っている。	複数の医療機関との関係を結んでおり、日頃から協力医との連携は密にされていることが確認された。日々の健康管理が体調の変化の早期発見につながり、適切な医療支援が行なわれていた。	看護職員の配置による健康管理や、緊急時の受診体制は、本人、家族の最大の安心につながっていると思われる。今後も継続して支援されることを望む。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置があり日常ケアの中で常に異変の情報をキャッチし、医師との連携がスムーズに行われるため早めの対応ができ重度化の防止と、入院をできる限り最小限に抑え施設内でのケアが続けられるよう心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては病院関係者との連携を持ちながら情報交換をし、早めの退院に向けて、その後のケアやりハビリに対して職員が学習する時間を作り準備を行い、できるだけ早く元の生活に近づけられるよう心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意志を確認した上で医療をどのように受けていくのか、終末期の方針、施設ができる可能なケアについて説明し、理解を得ている。身寄りがない入居者に対しては認識できるときに話し合いを持ち確約を取っている。	入居時に重度化や終末期の指針を説明し、本人、家族の意思はその都度確認しながら、希望に添えるよう対応されていることが確認できた。	終末期支援の対応を早い段階から確認され、事業所でできる最大限の支援に取り組まれていることは、本人、家族の安心につながっている。今後更に、同意書の作成などに取り組まれることを望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命救急の勉強会、対応可能なケアについて知識の共有を図っている。緊急時マニュアルは常に閲覧できる場所に掲示してあり緊急時に備えている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、防災訓練を地域の消防団、住民の参加を得ながら協力がある。災害時の通報は責任者からその都度説明を受け、誰でも対応できる体制を築いている。	夜間の火災を想定した訓練が、地域の消防団、住民の参加のもとに行なわれていた。避難場所での混乱防止と頭部保護目的のため、個人の特徴を明記した頭巾を作成するなど、具体的な物品準備もされていた。	火災ばかりでなく地震、水害、大雪などの様々な災害が想定される。職員にわかりやすい場所に、フローシートの掲示をしたり、夜勤前に各自シミュレーションしたり、いざというとき慌てないよう日頃から備品の確認するなどの取り組みを期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を払うことを忘れず、本人の基本を大切に言葉かけや、ケアを心がけている。援助が必要なときもさりげなく居室に誘導しプライバシーを確保している。	職員は言葉がけの際は利用者との目の高さを合わせ、さりげなく優しい表情で接している様子が伺えた。日常的なやり取りから、利用者の人格を尊重する姿勢が感じられた。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則である。今後も継続してミーティング等で確認したり、プライバシーの保護規定を掲示するなど常に確認しあうことを望む。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の場面ごとに一人ひとりに合わせた声かけをし、本人の意向に沿うよう心がけている。また職員間が一人ひとりと深く関わる事により、反応を的確に把握できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、個々のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。買い物などの外出の希望にはできるだけ迅速に対応している。しかし入浴の時間、日程などにおいては希望に添えないこともある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを大切に、季節に合った服装をして頂けるよう心がけている。2ヵ月毎の美容師ボランティアの散髪をいただいたり、なじみの美容院の希望によりパーマをかけに行くなどの支援をしている。服装の乱れなど気遣い身だしなみに配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの自家菜園で収穫したり、季節ごとの旬な食材を取り入れている。一人ひとりのレベルにあった食事の下ごしらえや料理の得意を活かせるようなプラン作りを心がけ日常的な支援が行われている。嗜好に踏まえた料理や、節目ごと特別メニューで食事を楽しんでいる。	訪問当日は、餃子を包んだり、もやしの根を取る作業を、職員とともに楽しそうに行なっている様子が見られた。入居者は気の合う仲間同士や職員と食事を味わっていた。	職員は、食事一連の作業を入居者の力を活かしながら行っており、利用者と職員が一緒に食事を楽しむことで家庭的な環境作りがされていると思われる。今後も継続して取り組んでいただきたい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握できるよう個人の記録を行い、不足している場合補助食品や半流動食品を取り入れ食べやすいものを工夫している。全体重が不足しがちな人には夜間も摂取できるような支援を心がけている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、毎食後には洗面所にて口腔ケアを行っている。自分で出来ない方には気持ちに配慮しながら、能力に応じた支援を行い清潔を保つように努めている。必要な場合、定期的に歯科受診を行い口腔ケアに努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら入居者の表情や訴えに応じた支援を行っている。Dパンツや、パットなど個々に合わせながら検討を重ね、夜間と昼間の使用を区別し出来る限り気持ちよく過ごせるように配慮している。	職員は、トイレの誘導の際、さりげなくそっと声をかけるなど、本人の自尊心に配慮した援助を行っていた。車椅子で入れるスペースが確保されていたり、背もたれ付きのトイレなど工夫が見られた。	排泄の自立は、生きる意欲や自信の回復につながることを介護者が理解し、本人のプライドを傷つけない配慮が見られた。今後も継続した支援を望む。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や運動をレベルに合わせて個別対応を行い、水分補給に心がけている。排泄の状態を観察しながら食品に気を使い、微量な下剤コントロールによって過剰にならないような生活習慣を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心や、体の負担にならないよう配慮しながら無理強いしない。本人が入浴したい気持ちを誘い出すような言葉がけに気を使っている。入浴できない日には足浴を行い気分転換をしている。	入居者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援を行っていた。体調等により清拭や足浴に切り替えたり、仲の良い方同士での入浴など、柔軟な対応がされていた。	入浴を嫌がる場合は無理強いせず、抵抗感を職員がその都度理解し、利用者を脅かさない支援がされていた。今後も利用者の心情に寄り添う支援を継続していただきたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や疲労状態を見て午睡を進めたり、寝付けなかったり、不安の表出がある場合傍に寄り添える時間をとるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	希望者は1週間ごとにセットし自己管理できるようにしている。服薬時はきちんと氏名、時間を確認し間違いの無いように注意している。服薬情報の手帳をいつでも確認できるようにしている。変更時は連絡帳によって職員に情報が提供できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルに応じた得意分野を活かし、料理作り、洗濯物をたたむ、玄関の掃除、散歩の帰りの畑の作物の収穫、手芸、作品作り、音楽療法への参加など個々の楽しみ、役割を配慮し、日常の張り合いになるよう支援に心がけている。		

外部評価結果(グループホームハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院、買い物、時には外食の希望など取り入れられるよう心がけている。音楽文化ホールでのコンサートもチャンスがあれば出かけ気分転換を図っている。太鼓、琴コンサート、地域の文化交流会の誘いに来るだけ大勢の参加が出来るよう心がけている。	一人ひとりの希望に応じ、美容院、散歩、外食など戸外へ出る支援を積極的に行っていた。訪問調査日には、利用者の希望により選挙の期日前投票への付き添いが行なわれ、「今」を大切にするケアの実践が確認された。	日常的支援に限らず、本人の思いに添った墓参りや思い出の場所への外出支援に応える姿勢は、利用者や家族の大きな満足感につながっていると思われる。今後も継続されることを望む。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際に現金を持ち買い物を楽しむなどの支援をレベルに応じて行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出すための支援を行っている。個人で携帯を持ち自己管理している入居者が定期的に家族と連絡できる環境がある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員ごとで季節の当番を決め季節に合わせた装飾を居室や、壁に飾りできるよう入居者と一緒で作ってささやかな楽しみを作り季節感を味わっている。	居間や玄関には利用者と職員で作り上げた作品や絵画が飾られ、季節感を採り入れた生花や装飾品がさりげなく置かれていた。ゆったりとした思い思いにくつろいでいる利用者の様子が伺えた。	今後も利用者にとって懐かしく感じたり、居心地の良い空間作りに努められるよう期待する。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは仲良し同士、レベルにあった仲間が隣同士になるなどお互いが良い関係が保てるよう環境づくりに心がけている。テーブルの名前を見て利用者自身の居場所が分かり安心が得られるようにした。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や以前から使われているタンス、人形、椅子など持ち込まれ、個々にあった居心地の良い空間が作れるよう家族から協力を得ている。いつもお気に入りの場所があり部屋ではその場所から見える景色、行き交う車などを見ながら楽しめる雰囲気がある。	寝具やタンス、仏壇や写真やぬいぐるみなど、馴染みの物を活かし本人が落ち着いて過ごせる居室作りに取り組みされていた。	職員がプライバシーに配慮し、居心地の良い居室の環境作りに配慮していることが確認された。今後も引き続きの支援を望む。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせ混乱が生じた場合は物の配置に気を配るよう心がけている。トイレ風呂場など身体状況に応じ、手すり、背もたれなど増設した。施設内はバリアフリーではあるが数mmの段差の場所に注意が向くよう黄色いテープを張り目立つようにしている。		